

---

# 炎空

紅葉寺 惺麗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

炎空

### 【Nコード】

N2900D

### 【作者名】

紅葉寺 惺麗

### 【あらすじ】

ー時は昭和20年6月ー少年光太は福岡に住む、普通とは少し違った少年だった。お金も、食べ物も無い……。妹は19日に誕生日を迎える……。そんな第二次世界大戦中に生きる少年の人生とは？

6月16日 午後5時（前書き）

途中の文で、空襲のシーンが出ます。人の死ぬ様等を見るのが苦手な方は、あまり読まないほうが良いかと思われまゝ。ご了承ください。

6月16日 午後5時

―昭和20年

6月16日

戦争の時―

空は青く、太陽は金色こんじきに輝いていた。  
その空の下には福岡という街があった。

『ただいまあー!!』

少年は木造の家の戸をガラツと勢いよく開け、  
中学校から我が家へと帰ってきた。

光太コウタという少年だった。

光太は、髪が長めで肌が白く、眼が良く澄んでいて  
その時代から言うところ、普通とは少し変わった少年だった。

夏だというのに、長袖の学ランと、  
お母さんが作った 青い防空頭巾とお揃いの\*モンペの様なズボンを  
を着ていた。

( \*足首が細くしまったズボンのようなもの。 )

光太が玄関に上がろうとしたその瞬間、  
木造の家の奥から、ドタタタタツツと何かの足音が迫ってきた。

その足音の正体は光太の前で足を止め、  
手を後ろに組みながら嬉しそうにハアツハアツと息を乱し、  
おまけに頬を紅く染めてこちらを見ている。小学生くらいの少女だ  
った。

少女は、光太と同じく、肌が白く眼がよく澄んでいるし、その眼はクリツとしていて、そいつを守ろうと長い睫毛まつげが規則正しく生えているので、とても綺麗だった。

髪は 真っ黒で長く、肘ひじまでストンと伸びている。

・・・それでもその髪をミツアミにつめているものだから、その髪ゴムを取ったらどのくらい髪が長くなるのか、考えてしまう程だ。

その少女とは妹の樺良子カヨコだった。

『にいちちゃんッおかえりいーッ』樺良子は、ニコニコしながら言った。

『カヨッ 如何どうしたん？嬉しそうやん。』

博多の少年光太は、ほけッとしながら問うた。

カヨとは、樺良子のあだ名だった。

『コレ見てッ』カヨが後ろに組んでいた手を自分の胸の前へ運び、さつきまで背中に隠していた長い青スカートを優しく抱いてみせた。

『ほら、良いやろ。 母ちゃんがウチの誕生日につて縫ってくれたんよ。』

お金も布も無いけんつて、母ちゃん、大事な自分の服の\*キレから一生懸命、工夫して作ったつて。』（\*布切れ）

『でも、今日は16日やし、まだもらうのは早いんじゃないん？19日やなかった？』

『早く出来たんよッ』

・・・そつか。カヨの誕生日、明後日あさってだっけ・・・。

母ちゃんはキレで服を繕つくろったんか。

あの縫い物嫌いが・・・一縫い一縫い、大事に、そして丁寧に、繕ったんやろつなあー！

それもそうやん、この第2次世界大戦中に　いつ、何が起きて家族バラバラになるか、分からんもんな。

と光太は眼を左下にそらしてから、不器用に、ニツと笑ってみせた。

『まだ着んの？』

『もッ勿体無いッッコレはウチが11歳になったら着るんー！！』

・・ハイツもう見ちゃ駄目エー。』

カヨはスカートを持ってキャッキヤと家の奥へと姿を消していった。

誕生日・・・か。何かしてやらんと。<sup>なん</sup>

・でも　金ないし、何も売つとらんし　何か作らんといかん・・・。

光太はため息をついて空を見上げた。時刻は5時を過ぎているというのに、

夏の空はまだ青かった。その“青”からは、“戦争”なんて言葉は浮かんで来なかった。

“福岡大空襲”なんて言葉は特にー

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2900d/>

---

炎空

2010年10月10日04時11分発行